

領域3

近畿における機関リポジトリ コミュニティ形成の支援 名古屋・東海地区における機関リポジトリ コミュニティ形成の支援

大阪大学附属図書館 坂本 祐一
名古屋大学附属図書館 端場 純子

概要

学術情報のオープンアクセス化を推進するための有効な手段として機関リポジトリとその活動を推進するために、大学の密集する近畿地区で平成22年度から平成24年度までの3年間にわたり、機関リポジトリ担当者間の有意義なコミュニティを形成し発展させることを目的とした事業を実施した。

平成22年度は、機関リポジトリ設置とオープンアクセスのさらなる推進、機関リポジトリ担当者との気軽な情報交換、顔の見える担当者コミュニティの形成を目的として、5回の連続研修会、近隣大学への訪問（8大学）、技術研修会を行い、近畿地区における機関リポジトリコミュニティ形成を支援した。

平成23年度は、機関リポジトリの構築・運営の問題点を議論し、情報を共有するための4回の連続研修会と、機関リポジトリの導入を推奨し、連続研修会参加大学への機関リポジトリの支援を行うための近隣大学への訪問（3大学）、当該地域のリポジトリコミュニティの形成、知識やスキルを近畿のコミュニティに還元するための先行機関への訪問（2機関）、近畿以外の地域の機関リポジトリコミュニティ形成のための名古屋地区研修会を行い、地域における機関リポジトリコミュニティ形成を支援した。

その結果、研修会等での職員交流により、近畿地区には機関リポジトリや学術情報のオープンアクセス化をテーマとして互いに相談ができるコミュニティが構築された。また、当時 JAIRO Cloud のサービス開始前であった国立情報学研究所と連携して、同サービスへの参加募集活動を本プロジェクトの支援活動の一貫として行ったことにより8つの機関が JAIRO Cloud へ参加し、2つの機関が独自に機関リポジトリを構築し、2つの機関が構築に向けて具体的な検討を開始した。特にそれまで機関リポジトリ導入に躊躇していた複数の中小規模大学から JAIRO Cloud への参加申込があり、機関リポジトリの構築増加につながった。

平成24年度は、近畿地区のコミュニティが自立して活動を行うことができるようになったため、同じく大学数の多い名古屋・東海地区に場所を移し、機関リポジトリの既設・未設機関の区別なく、相互に気軽に情報交換できる活きた機関リポジトリの担当者コミュニティの形成を主目的として、以下の事業を実施した。(1) 機関リポジトリの導入を推奨し、また運営上の問題点を議論し、情報の共有を目的とする連続研修会を他の機関リポジトリ研修プロジェクトと連携して行い、62機関から100名の参加があった。(2) 個別大学の機関リポジトリの独自事情について相談を受けることを目的とする近隣大学訪問を行った。(3) 先行機関を訪問し意見交換を行うことでコンテンツ収集や広報の具体的な改善に役立つ情報を収集した。

平成25年3月時点で名古屋・東海地区の機関リポジトリ設置機関は16機関(国立8, 公立1, 私立7)となり、1年を経ずして5機関の増加を見ている。

今後は本事業を機に形成されたコミュニティをどのようにして安定的に持続させていくかが課題である。長期的に機関リポジトリのコミュニティ活動を継続していくためには、特別な費用を必要とせず、また特定の大学に負担がかからない方法で実施するのが望ましい。具体的には、費用のかからないメーリングリストの運用や、定期的な地区の研修会等を活用したりリポジトリ研修などが考えられる。

目次

1. 背景	1
(1) 平成22年度, 23年度	1
(2) プロジェクト主担当機関変更の経緯	1
(3) 平成24年度	1
2. 実施内容	2
(1) 近畿地区	2
① 平成22年度	2
② 平成23年度	7
(2) 名古屋・東海地区	12
3. 成果・波及効果	17
(1) 近畿地区	17
(2) 名古屋・東海地区	18
4. 課題及び課題解決へ向けての展望	18
5. 今後の計画	19
6. 引用文献等	19
7. その他	20

1. 背景

(1) 平成22年度、23年度

近畿地区には大学図書館近畿イニシアティブ加盟館として170館以上が存在し、その多くが私立大学の機関リポジトリの未構築機関であった。既に存在した全国規模の機関リポジトリコミュニティ支援組織であるDRF (Digital Repository Federation) は、その活動により近畿地区にも多くの有益な足跡と、担当者間で活発に連絡をとりあうことのできる活きたコミュニティを残した。しかし、機関リポジトリの初期構築や導入間もないスタート時点においては、大規模なワークショップよりも、むしろ小規模な研修会・勉強会等の地域独自の密接・頻繁そして継続的なサポートが有効であり、そのようなレベルでのきめ細やかな支援は、地域に特化したコミュニティが担当しなければ維持が困難であった。単に導入・運用上の技術的なテーマを扱うのみならず、各機関の業務担当者間で安心して気軽に相談することのできる“顔の見える”生きた継続的な関係を構築することを目的とするリポジトリサポートプロジェクトが、近畿地区の機関リポジトリ事業推進に必要とされていた。

地域に特化したリポジトリサポートプロジェクトは地域共同リポジトリ以外に存在しなかった。大学数の比較的少ない地方では、地域の県大協等を土台にした地域共同リポジトリを成立させることもできる。しかし、近畿地区のような都市圏等大学密集地域では、一つの共同サーバを設置して、そのもとに大学が集まる地域共同リポジトリの実現は困難であった。その結果、近畿地区の個々の機関は孤立してそれぞれに機関リポジトリの導入・維持を進めざるを得ず、それは結局機関リポジトリの未構築やコンテンツ数の伸びの停滞を招いていた。

我が国の機関リポジトリの普及、その事業の裾野拡大は公立大学及び私立大学の積極的な事業参加を外してはあり得ず、以上のことから、地元の利を活かした声をかけやすく相談しやすい綿密な機関リポジトリ担当者コミュニティ形成及びその持続的な支援を目的とし、大阪大学を代表機関として「近畿における機関リポジトリコミュニティ形成の支援」プロジェクトを実施することとなった。

(2) プロジェクト主担当機関変更の経緯

近畿地区においては、平成22年度、23年度の二年間のプロジェクト活動により、本プロジェクトの目的とした「いつでも安心して気軽に相談することのできる“顔の見える”機関リポジトリ担当者コミュニティ」が形成された。今後、形成された近畿地区における機関リポジトリコミュニティの活動は、本プロジェクトのサポートに依らず自立して活動を行うことができるようになった。一方で、近畿地区と同じく大学が密集する名古屋地区では、コミュニティを形成するための支援が必要な状況であった。そのため「機関リポジトリコミュニティ形成の支援事業」を名古屋地区に移して継続することにより、我が国の機関リポジトリ事業の各地域への普及をより効果的に行うことを目指した。

(3) 平成24年度

名古屋・東海地区は、東海地区大学図書館協議会の加盟館が88を数えるなど、近畿地区と同じく多くの大学が密集する地域である。しかし、機関リポジトリを構築・公開している機関はまだ少なく、平成24年7月時点で名古屋・東海地区において機関リポジトリを設置しているのは11機関（国立7、私立4）のみであった。

中でも最も早い時期に機関リポジトリを構築した名古屋大学が、大阪大学からの呼びかけに応じて中心となって平成24年度に本事業を実施することになった。

2. 実施内容

(1) 近畿地区

① 平成22年度¹⁾

機関リポジトリ設置とオープンアクセスのさらなる推進、機関リポジトリ担当者と

の気軽な情報交換、顔の見える担当者コミュニティの形成を目的として下表の体制で5回の連続研修会、近隣大学への訪問（8大学）、技術研修会を行い、近畿地区における機関リポジトリコミュニティ形成を支援した。

担当	大学	担当内容
代表機関	大阪大学	プロジェクト総括、事業計画、旅費支出
分担機関	奈良女子大学	研修会開催、旅費支出
連携機関	龍谷大学	研修会開催、広報
	神戸市外国語大学	研修会開催、サイト作成
	大阪市立大学	研修会開催、アンケート集計

■連続研修会

➤ 第1回連続研修会



【参加者】42名

【日時】平成22年8月20日（金）

14：00－17：00

【場所】神戸市外国語大学

【テーマ】みんなで未構築機関向けの話をしよう

【プログラム】

14：00－14：05 開会あいさつ（神戸市外国語大学学術情報センターグループ長）

14：05－14：20 プロジェクト代表機関による趣旨説明（大阪大学・前田信治）

14：20－14：40 事例報告1（神戸市外国語大学・谷本千栄）

14：40－15：00 事例報告2（龍谷大学・芝野朋子）

15：00－15：15 （休憩）

15：15－15：40 事例報告に関する質疑応答の時間（司会：大阪大学・土出郁子）

15：40－16：20 リポジトリサーバ見直し検討の時間（大阪大学・前田信治）

16：20－16：55 なんでも質問大会（司会：大阪大学・前田信治）

16：55－17：00 閉会の言葉（神戸市外国語大学・谷本千栄）

【研修会への意見・感想（抜粋）】

- ・近隣で顔の見えるしかも連続研修ということですから素晴らしいですね。
- ・機関リポジトリについて全く知識がなかったのですが、具体的な事例報告は大変参考になりました。どうして大学で機関リポジトリが必要なのか、考える良い機会となりました。ありがとうございました。
- ・具体的な事例が多く、説明がわかりやすかったです。ありがとうございました。

➤ 第2回連続研修会

【参加者】51名

【日時】平成22年9月24日（金）

14：00－17：00

【場所】 龍谷大学



【テーマ】 コンテンツの集め方について話をしよう

【プログラム】

14:00-14:05 開会あいさつ (龍谷大学図書館事務部次長)

14:05-14:10 プロジェクト代表機関によるテーマ説明 (大阪大学・前田信治)

14:10-14:30 龍谷大学担当者による事例報告 (龍谷大学・中崎憲和)

14:30-14:50 愛知教育大担当者による事例報告 (愛知教育大学・古田紀子)

14:50-15:10 (休憩)

15:10-15:40 事例報告に関する質疑応答の時間 (司会: 奈良女子大学・森下映理)

15:40-16:20 著作権処理の概要について (紀要論文のケース・具体的な事例をあげて) (司会: 大阪大学・前田信治)

16:20-16:55 なんでも質問大会 (司会: 大阪大学・前田信治)

16:55-17:00 閉会の言葉 (龍谷大学・中崎憲和)

【研修会への意見・感想 (抜粋)】

- ・リポジトリ構築に向けて、またいろいろな情報が得られました。質問をしやすい雰囲気、疑問を感じたことをその場ですぐに解決できるのがありがたいです。

- ・少しずつ理解が広がってくるようです。連続講座の賜物です。具体的には何ひとつ動いていませんので、当分は知識を入れるのみです。

- ・他大学の事例をおききすることができ、みなさんも苦労されながらも進んでらっしゃるんだなあと感じました。本学でもがんばらなければと思いました。

➤ 第3回連続研修会

【参加者】 59名



【日時】 平成22年10月22日 (金)

14:00-17:00

【場所】 奈良女子大学

【テーマ】 研究機関の情報発信とは? - 皆様に具体的手段を提供します -

【共催】 奈良県図書館協会 大学・専門図書館部会

【プログラム】

14:00-14:05 開会あいさつ (奈良女子大学附属図書館長)

14:05-14:10 プロジェクト代表機関による主旨説明 (大阪大学・前田信治)

14:10-14:45 事例報告1・質疑応答「コピーで作る XooNIPS」(奈良大学・磯野肇)

14:45-15:20 事例報告2・質疑応答「複合機でスキャンー貧乏暇無し、自力でのPDF化ー」(奈良女子大学・森下映理)

15:20-15:40 (休憩)

15：40-16：00 「あなたのメタデータ、検索されていますか？」(大阪市立大学・中村健)

16：00-16：55 なんでも質問大会(司会：大阪大学・土出郁子)

16：55-17：00 閉会の言葉(奈良女子大学・寺島陽子)

【研修会への意見・感想(抜粋)】

- ・2・3回と出席させていただいています。研修会に参加するたびに皆さんの体験された経験を聞かせていただけることは、まだ検討中の本学でもやってみようという力になります。
- ・リポジトリでは補助的な仕事をしていますが、情報をもっている人、情報を欲しいが気兼ねなく交流できるいい機会になっているかと思いました。
- ・まだ配属されて1ヶ月も経っていないので(10月1日から)お話しいただいたことがあまりよく分かっていない部分が多くありましたが、これからは研修会を行って下さい。

➤ 第4回連続研修会



【参加者】63名

【日時】平成22年12月10日(金)

13：30-17：00

【場所】神戸女子大学

【テーマ】学内広報で協力者を探そう！

【共催】兵庫県大学図書館協議会 共催

【プログラム】

13：30-13：35 開会あいさつ(神戸市外国語大学)

13：35-13：40 プロジェクト代表機関による趣旨説明(大阪大学・前田信治)

13：40-14：10 学内合意、どう形成しましたか？(司会：神戸市外国語大学・谷本千栄)

14：10-14：45 事例報告・質疑応答「KURENAIの広報戦略 リポジトリ事業の持続性を高めるマーケティング」(京都大学・天野絵里子)

14：45-14：55 (休憩)

14：55-15：30 事例報告・質疑応答「神戸大学学術成果リポジトリ Kernelの事例報告」(神戸大学・末田真樹子)

15：30-16：00 Let's 広報！「先生、コンテンツください」(研究室訪問を実演してみます)

16：00-16：10 (休憩)

16：10-16：55 なんでも質問大会(司会：神戸大学・中山貴弘)

16：55-17：00 閉会あいさつ(神戸松蔭女子学院大学・加川みどり)

【研修会への意見・感想(抜粋)】

- ・他大学での取り組み事例を参考に、自館での広報、登録依頼時に活用してゆきたいと考えております。
- ・構築前でも、広報を始めて実現にむけていきたいと思いました。ありがとうございました。
- ・参加回数が増す毎に理解度が深くなりました。ありがとうございました。

➤ 第5回連続研修会

【参加者】48名

【日時】平成23年1月20日(木)

11：00-17：00

【場所】 大阪市立大学

【テーマ】 一年のまとめとメタデータ



【プログラム】

- 11：00－11：40 開催挨拶&基調講演
「学術成果の公共・国際化とオープンアクセスへの期待-人文社会科学系研究者の視点-」（大阪市立大学・山崎孝史）
- 11：40－12：00 質疑応答
- 12：00－13：00 昼食ランチ&名刺交換会
- 13：00－15：30 「メタデータ勉強会」
・機関リポジトリのメタデータ（京都大学・大西賢人）
- 15：30－16：10 今までの研修会でのtopic 整理等（大阪大学・前田信治）
- 16：15－16：55 なんでも質問大会（司会：大阪大学・土出郁子）
- 16：55－17：00 閉会挨拶（大阪市立大学・湖城強）

【研修会への意見・感想（抜粋）】

- ・連続研修ありがとうございました。コミュニティ形成は成功したと思います。
- ・多くの頼りになる先輩ができました。ありがとうございました。
- ・4回参加させてもらい、リポジトリの概要を把握することができました。ありがとうございました。
- ・5回も連続で開催していただき、お顔やお名前も覚えた人も増え、全体的に本当に明るい楽しい研修会でした。ありがと

うございました。

■近隣大学訪問

本プロジェクトの連続研修会に参加した機関から、訪問先を選定し、個別の事情について相談を受けた。本プロジェクトスタッフと連続研修会参加者との障壁をなくするための大きな役割を果たした。

➤ びわこ成蹊スポーツ大学訪問

【日時】 平成22年12月15日

【訪問内容】

機関リポジトリサーバ設置のために必要な助言・指導を行った。

➤ 神戸松蔭女子学院大学

【日時】 平成23年1月26日

【訪問内容】

機関リポジトリに関する概論等について下記説明をし、質疑応答を行った。

- ・個人や研究室のHP上での公開が機関リポジトリ上でのそれと異なることを、メタデータハーベスト及び大学としての公式サービスである点から説明した。
- ・現在の出版社主導の学術情報流通を変革するためのツールとして、機関リポジトリへのセルフ・アーカイブが重要であることを説明した。
- ・機関リポジトリのみならず、これからの時代の要求に応えられる、一定のレベルのシステム・スキルをもった図書館員の養成と維持が重要であることを説明した。
- ・機関リポジトリは各大学で孤立的に進めるべきものではなく、クラウドリポジトリを利用するとしても、そのコミュニティは必須であることを説明した。

➤ 大阪青山大学

【日時】 平成23年1月28日 14：30－16：30

【訪問内容】

機関リポジトリの意義や構築について下記説明を行い、議論した。

- ・個人や研究室のHP上での公開が機関リポジトリ上でのそれと異なることを、メタデータハーベスト及び大学としての公式サービスである点から説明した。
- ・現在の出版社主導の学術情報流通を変革するためのツールとして、機関リポジトリへのセルフ・アーカイブが重要であることを説明した。
- ・機関リポジトリのみならず、これからの時代の要求に応えられる、一定のレベルのシステム・スキルをもった図書館員の養成と維持が重要であることを説明した。

➤ 関西福祉科学大学

【日時】平成23年2月9日 10:45-12:00

【訪問内容】

機関リポジトリの意義や構築について下記説明を行い、議論した。

- ・機関リポジトリの活動は図書館が能動的に研究者の側に迫り、研究成果の生産、流通、保存に関して強く関与せざるを得ないものであること、またそれによって図書館は大学において必須の機能を果たし、図書館職員は使命を実感することができることを説明した。
- ・現在の出版社主導の学術情報流通を変革するためのツールとして、機関リポジトリへのセルフ・アーカイブが重要であることを説明した。
- ・機関リポジトリのみならず、これからの時代の要求に応えられる、一定のレベルのシステム・スキルをもった図書館員の養成と維持が重要であることを説明した。

➤ 大阪商業大学

【日時】平成23年2月9日 15:00-16:30

【訪問内容】

機関リポジトリの意義や構築について下記説明を行い、議論した。

- ・現在の出版社主導の学術情報流通を変革するためのツールとして、機関リポジトリへのセルフ・アーカイブが重要であることを説明した。
- ・機関リポジトリのみならず、これからの時代の要求に応えられる、一定のレベルのシステム・スキルをもった図書館員の養成と維持が重要であることを説明した。

➤ 滋賀県立大学

【日時】平成23年2月14日 14:00-16:00

【訪問内容】

機関リポジトリの意義や構築について下記説明を行い、議論した。

- ・個人や研究室のHP上での研究成果の公開が機関リポジトリ上でのそれと異なることを、メタデータハーベスト及び大学としての公式サービスである点から説明した。
- ・現在の出版社主導の学術情報流通を変革するためのツールとして、機関リポジトリへのセルフ・アーカイブが重要であることを説明した。
- ・機関リポジトリのみならず、これからの時代の要求に応えられる、一定のレベルのシステム・スキルをもった図書館員の養成と維持が重要であることを説明した。
- ・機関リポジトリは各大学で孤立的に進めるべきものではなく、クラウドリポジトリを利用するとしても、そのコミュニティは必須であることを説明した。

➤ 和歌山大学

【日時】平成23年2月21日 13:00-15:00

【訪問内容】

機関リポジトリの意義や構築について下

記説明を行い、議論した。

- ・個人や研究室のHP上での公開が機関リポジトリ上でのそれと異なることを、メタデータハーベスト及び大学としての公式サービスである点から説明した。
- ・現在の出版社主導の学術情報流通を変革するためのツールとして、機関リポジトリへのセルフ・アーカイブが重要と説いた。
- ・機関リポジトリのみならず、これからの時代の要求に応えられる、一定のレベルのシステム・スキルをもった図書館員の養成と維持が重要と説明した。

➤ 京都府立医科大学

【日時】平成23年2月24日 14:30-16:30

【訪問内容】

機関リポジトリの意義や構築について下記説明を行い、議論した。

- ・DRFのワークショップや連続研修会に参加されていた担当者の出席だったため、京都府立医科大学の現状について伺いながら、リポジトリについて意見交換や構築のアドバイスなどをおこなった。
- ・国内の医科大学のリポジトリ構築状況について紹介した。また医学看護学分野の論文のオープンアクセス化のニーズについてお話した。

- ・リポジトリを通じて、教員とのつながりを強化できることを説明し、その方法としてインタビューは有効であることを紹介した。

■技術研修会

DSpace1.5.2のサーバへのインストール実習を行った。既・未構築機関両機関の担当者が参加したが、全員が自力インストールに成功し、サーバの構造を理解するのに役立った。

【日時】平成22年9月10日

【場所】大阪大学

② 平成23年度²⁾

機関リポジトリの構築・運営の問題点を議論し、情報を共有するための4回の連続研修会、機関リポジトリの導入を推奨し、連続研修会参加大学への機関リポジトリの支援を行うための近隣大学への訪問(3大学)、当該地域のリポジトリコミュニティの形成、知識やスキルを近畿のコミュニティに還元するための先行機関への訪問(2機関)、近畿以外の地域の機関リポジトリコミュニティ形成のための名古屋地区研修会を下表の体制で行い、地域における機関リポジトリコミュニティ形成を支援した。

担当	大学	担当内容
代表機関	大阪大学	プロジェクト統括, 事業計画立案, 旅費支出
連携機関	奈良女子大学	講師派遣, ワークショップ支援
	龍谷大学	ワークショップ開催, 講師派遣
	神戸市外国語大学	ワークショップ開催, 講師派遣, HP管理
	大阪市立大学	ワークショップ, アンケート整理

■連続研修会

- 第1回連続研修会(第1回は委託事業によらず独自に開催した)

➤ 第2回連続研修会

【参加者】51名

【日時】平成23年9月16日(金)

10:00-17:00

【場所】神戸松蔭女子学院大学

【後援】兵庫県大学図書館協議会



【プログラム】

- 10：00-10：10 開会あいさつ（神戸松蔭女子学院大学図書館長）
- 10：10-10：15 プロジェクト主担当機関挨拶（大阪大学・前田信治）
- 10：15-11：05 機関リポジトリの事業と図書館員の役目（大阪大学・前田信治）
- 11：05-11：15 （休憩）
- 11：15-11：50 事例報告（びわこ成蹊スポーツ大学・中山亮）
- 11：50-13：20 （昼食）
- 13：20-14：50 NII 共用リポジトリサービスに係る説明会
- 14：50-15：10 （休憩）
- 15：10-15：50 事例報告（聖学院大学・菊池美紀）
- 15：50-16：10 （休憩）
- 16：10-16：50 何でも質問会（司会：大阪大学・前田信治）
- 16：50-16：55 参加の感想（聖学院大学・菊池美紀）
- 16：55-17：00 閉会あいさつ（神戸松蔭女子学院大学・熊元千重子）

【研修会への意見・感想（抜粋）】

- ・新規の予算が困難になり「WEKO」なら可能性があるかなと思えた。
- ・今回は共用リポジトリの説明会があったり、いろいろ思うところがありました。ですが、回を重ねるごとに、コミュニティが密になっていて、いろいろ本音で

相談できる仲間がいることはとてもありがたいです。

- ・ 学術情報の流通に大学図書館活動がIRから働きかけることができるというのは発見でした。参加すると働く元気が出ます。リスクは抱えてあたり前と思うようになりました。

➤ 第3回連続研修会

【参加者】 43名

【日時】 平成23年11月18日（金）

12：30-17：30

【場所】 京都ノートルダム女子大学



【プログラム】

- 12：30-12：35 開会挨拶（京都ノートルダム女子大学学術情報センター長）
- 12：35-12：40 プロジェクト代表機関挨拶（大阪大学・前田信治）
- 12：40-13：40 「必ず聞かれる著作権SCPJデータベースの便利な使い方」（筑波大学・大澤類里佐）
- 13：40-13：55 （休憩）
- 13：55-14：15 事例報告「龍谷大学学術機関リポジトリ R-SHIP：こんなんしています。」（龍谷大学・芝野朋子）
- 14：15-14：45 事例報告「機関リポジトリのコンテンツ」（千葉大学・武内八重子）
- 14：45-15：05 （休憩）
- 15：05-16：25 テーマ別グループディ

スカッション+情報共有のためのグループ発表

- 16:25-16:45 (休憩)
16:45-17:15 事例報告質疑応答・何でも質問大会(司会:龍谷大学・芝野朋子, 大阪大学・森石みどり)
17:15-17:25 「近畿領域3」連続研修会へのコメント・感想(筑波大学・大澤類里佐, 千葉大学・武内八重子)
17:25-17:30 閉会挨拶(京都ノートルダム女子大学学術情報センター図書館事務室長)

【研修会への意見・感想(抜粋)】

- ・これを機会にぜひ本学でも構築を実現したいと思いました。
- ・未構築でリポジトリについてまだ分からないことだらけなのですが, “みんなでつくりあげていきましょう” と言っただけのことが, 大変心強かったです。ありがとうございました。
- ・本日はありがとうございました。実践にもとづいたお話でとてもよかったです。

➤ 第4回連続研修会



【参加者】34名

【日時】平成23年12月9日(金)

10:30-16:20

【場所】奈良先端科学技術大学院大学

【プログラム】

10:30-10:35 開会あいさつ(奈良先

端科学技術大学院大学教育研究支援部学術情報課長)

- 10:35-10:40 プロジェクト主担当機関あいさつ(大阪大学・前田信治)
10:40-11:30 論文と研究者を結びつける～機関リポジトリと業績DB～(金沢大学・守本瞬)
11:30-13:00 (昼食)
13:00-13:30 図書館のファンをふやす(大阪大学・土出郁子)
13:30-14:00 改めてPPP(千葉大学・森一郎)
14:00-14:30 ちょっとはじめのリポジトリ～奈良先端科学技術大学院大学事例報告～(奈良先端科学技術大学院大学・近藤喜和)
14:30-14:50 (休憩)
14:50-15:40 今年の近畿領域3の活動の総括(司会:大阪大学・前田信治)
15:40-16:10 なんでも質問大会(司会:大阪大学・前田信治)
16:10-16:15 「近畿領域3」連続研修会へのコメント・感想(金沢大学・守本瞬, 千葉大学・森一郎)
16:15-16:20 閉会あいさつ(大阪大学・前田信治)

【研修会への意見・感想(抜粋)】

- ・これからもこうしたコミュニティを続けていきたいです。
- ・今年, 3回出席させていただきましたが, 毎回とてもよい刺激を受け, 楽しい時間を過ごさせていただきました。どうもありがとうございました。
- ・主催者側の実のある話をしようという意図がよく伝わる研修会です。

連続研修会の参加者の機関種別及び機関リポジトリ構築状況は表1及び表2のとおりであった。

表1 平成23年度連続研修会参加者集計
(機関種別)

	参加者 (総数)	機関種別(アンケートから)			
		私立	公立	国立	その他
第1回	58	14	5	8	2
第2回	51	24	5	10	1
名古屋	42	23	4	3	0
第3回	43	13	5	11	0
第4回	34	10	3	13	0
合計	228	84	22	45	3

表2 平成23年度連続研修会参加者集計
(機関リポジトリ構築状況)

	構築種別(アンケートから)				
	構築済	構築中	検討中	機運だけ	白紙その他
第1回	8	5	12	3	5
第2回	12.5	2	15.5	2	8
名古屋	9	1	16.5	2.5	2
第3回	16	1	12	1	0
第4回	15	5	4	0	2
合計	60.5	14	60	8.5	17

■近隣大学訪問

本プロジェクトの連続研修会に参加した機関から、訪問先を選定し、個別の事情について相談を受けた。本プロジェクトスタッフと連続研修会参加者との障壁をなくすための大きな役割を果たした。

➤ 大阪青山大学

【日時】平成23年12月19日(月)

14:00-16:30

【訪問内容】

機関リポジトリの意義や構築等について下記説明を行い、議論した。

- ・研究に必要な学術雑誌の安定的な入手が困難になっている現実を、表/数値を用いて説明した。
- ・我が国において、国立大学のほぼ全ての大学、大手私立大と公立大の一部に機関リポジトリが設置され、中小規模私立大にその構築の波が来ている現況を説明し、国立情報学研究所の共用リポジトリ

など従来にはなかった選択肢もでき、今が機関リポジトリ設立の好機であることを説明した。

- ・近畿には既に機関リポジトリの担当者コミュニティが存在し、構築・運営のための相談、情報交換の場は存在し機能しているため、事業開始に当たって深刻な心配は無い旨の説明を行った。

➤ 朝日大学

【日時】2012年2月28日(火)

13:00-16:00

【訪問内容】

機関リポジトリの意義や構築等について下記説明を行い、議論した。

- ・実際のコンテンツ登録作業や、紀要論文の投稿規定の解説、文言追加例の提示、またSHERPA/RoMEO,SCPJの利用方法を説明するなどして、著作権処理の方法を説明した。
- ・我が国において、国立大学のほぼ全ての大学、大手私立大と公立大の一部に機関リポジトリが設置され、中小規模私立大にその構築の波が来ている現況を説明し、国立情報学研究所の共用リポジトリ等従来にはなかった選択肢もでき、今が機関リポジトリ設立の好機であることを説明した。
- ・学内合意形成の具体的な一歩は何がよいかという質問に対し、図書館長が機関リポジトリの構築に賛成でも反対でもないため、まず図書館長を説得し図書館長を先頭に学内合意形成を進めるよう勧めた。

➤ 京都女子大学

【日時】平成24年2月29日(水)

14:30-17:00

【訪問内容】

機関リポジトリの意義や構築等について下記説明を行い、議論した。

- ・実際のコンテンツ登録作業や、紀要論文の投稿規定の解説、文言追加例の提示、また SHERPA/RoMEO, SCPJ の利用方法を説明するなどして、著作権処理の方法を説明した。
- ・我が国において、国立大学のほぼ全ての大学、大手私立大と公立大の一部に機関リポジトリが設置され、中小規模私立大にその構築の波が来ている現況を説明し、国立情報学研究所の共用リポジトリなど従来にはなかった選択肢もでき、今が機関リポジトリ設立の好機であることを説明した。
- ・近畿には既に機関リポジトリの担当者コミュニティが存在し、構築・運営のための相談、情報交換の場は存在し機能しているため、事業開始に当たって深刻な心配は無い旨の説明を行った。

■先行機関訪問

先進的な機関リポジトリ運営機関を訪問し、業務体制、コンテンツ収集体制、システム運用体制等の情報収集を行い、訪問で学んだものを研修会に活かした。

➤ 東北大学

【日時】平成23年10月17日（月）

13：30－17：15

【訪問内容】

研究業績 DB との連携等、機関リポジトリのシステムについての先行的取り組みや、東北における機関リポジトリコミュニティの形成、コンテンツ収集、業務運用体制について情報収集を行った。

➤ 金沢大学

【日時】平成23年12月2日（金）

9：00－11：30

【訪問内容】

リポジトリと研究業績 DB の連携、研究者識別子等システムの先行的な取り組みの

ほか、コンテンツ収集の実際、データバックアップ体制など機関リポジトリ運用に係る日常の体制や、今後の展望について情報収集を行った。

■名古屋地区研修会

【参加者】42名

【日時】平成23年10月21日（金）

13：00－17：35



【場所】 椋山女学園大学

【プログラム】

13：00－13：10 開会あいさつ（椋山女学園大学図書館長）

13：10－13：40 機関リポジトリをする意義一祝・椋山女学園大機関リポジトリ構築―（大阪大学・前田信治）

13：40－14：10 機関リポジトリ構築後の実際の作業（奈良女子大学・森下映理）

14：10－14：30 機関リポジトリ構築に向けて―事例報告（1）（神戸市外国語大学・谷本千栄）

14：30－14：50 機関リポジトリ構築に向けて―事例報告（2）（大阪青山大学・渕上千鶴）

14：50－15：10（休憩）

15：10－16：40 NII クラウドリポジトリ説明会

16：40－16：55 名古屋地区の先行機関から（1）（愛知教育大学・古田紀子）

16：55－17：10 名古屋地区の先行機関から（2）（名古屋工業大学・林和宏）

17：10－17：30 全体質疑応答（司会：大阪大学・前田信治）

17：30－17：35 閉会挨拶（椋山女学園大学・森下さち子）

【研修会への意見・感想（抜粋）】

- ・NIIの共用リポジトリの説明をうかがいに来ました。長年、教員として紀要およびその電子化にとりくんできましたが、年齢的な問題から、後をついでくれる人をさがすのがむずかしく、共用リポジトリのようなシステムがあれば大変に弱小大学にとっては幸いです。
- ・判断に困ることや、つまりく部分は、同じなのだろうと感じました。（本学もOCR処理につまずきました。）何事もはじめてのことなので、正直、何をどう進めるのか、どう進むべきか惑っているのが本音です。しかし、とりあえず進めてみる姿勢が大切だと思いました。義務感や負担感だけでなく、つくりあげていく喜び、使ってもらい便利と思ってもらえる喜びを感じられるよう、業務を進めていきたいと思いました。様々な大学の事例を聞くことができ、参加してよかったです。
- ・リポジトリ中部地区の輪が少し広がり参加できてよかったです。名古屋・東海地区では平成24年9月から12月にかけて連続3回の研修会を開催した。各回のプログラムは次のとおりである。

(2) 名古屋・東海地区

機関リポジトリの導入を推奨し、また運営上の問題点を議論し、情報の共有を目的とする3回の連続研修会、個別大学の機関リポジトリの独自事情について相談を受けることを目的とする近隣大学への訪問（2大学）、先行大学の具体的取り組みの調査を行う機関訪問（1機関）を下表の体制で行い、地域における機関リポジトリコミュニティ形成を支援した。

担当	大学	担当内容
代表機関	名古屋大学	プロジェクト統括、事業計画立案、予算管理
連携機関	大阪大学	研修会運営支援

■連続研修会

➤ 第1回研修会

【参加者】33名（講師・スタッフ除く）

【日時】平成24年9月28日（金）

14：00－17：00

【場所】名古屋大学附属図書館 5階 多目的室



【プログラム】

14：00－14：05 閉会挨拶（名古屋大学附属図書館長）

14：05－14：20 趣旨説明（名古屋大学・端場純子）

14：20－15：10 講演「機関リポジトリの意義」（大阪大学・土出郁子）

15：10－15：40 事例報告1（関西福祉大学・西本朱美）

15：40－15：50 休憩

15：50－16：20 事例報告2（椋山女学園大学・天野由貴）

16：20－16：55 なんでも質問大会（司会：名古屋工業大学・林和宏）

16：55－17：00 閉会挨拶（名古屋大学附属図書館事務部長）

【研修会への意見・感想（抜粋）】

- ・どの話も非常に参考になりました。第2回研修会にもぜひ参加したいと考えております。
- ・同じようなことで惑うケースが多いの

で、他館のお話をうかがうことができ、参考になりました。自館でのことを考える機会にもなりました。人のつながりもでき、心強いです。ありがとうございました。

- ・日々の仕事に追われ、リポジトリの意義について考えることもなかった。改めて、見つめ直すことができ、良かった。オープンアクセスの動きも知ることができ、大変参考になった。

➤ 第2回研修会



【参加者】35名（講師・スタッフ除く）

【日時】平成24年11月1日（木）

13：30～17：00

【場所】名古屋工業大学 2号館 0211（F1）講義室

【プログラム】

13：30～13：35 開会挨拶（名古屋工業大学附属図書館長）

13：35～13：40 プロジェクト主担当機関挨拶（名古屋大学・端場純子）

13：40～14：20 講演「EJ・コンソ・オープンアクセス」（信州大学・津田ひろ子）

14：20～14：50 事例報告1（愛知淑徳大学・三田美里）

14：50～15：00 休憩

15：00～15：30 事例報告2（名古屋工業大学・林和宏）

15：30～16：00 事例報告3（大阪青山

大学・佐藤浩輔）

16：00～16：10 休憩

16：10～16：55 なんでも質問大会（司会：名古屋大学・端場純子）

16：55～17：00 閉会挨拶（名古屋大学附属図書館事務部長）

【研修会への意見・感想（抜粋）】

- ・構築までの苦労話や具体的な内情が聞けて、自分の大学だけじゃないとわかって安心します。
- ・質問を多くでき参考になります。
- ・こういう研修会が3回で終わるのはもったいない。
- ・近くの同じ業務をする方々と直接会って話せる機会が有難いです。JAIRO Cloudなど、新しいリポジトリの環境も興味深く（たまに羨ましく）、今回も勉強になりました。

➤ 第3回研修会



【参加者】32名（講師・スタッフ除く）

【日時】平成24年12月6日（木）

13：30～16：55

【場所】愛知大学 名古屋図書館1階ディスカッションルーム

【プログラム】

13：30～13：35 開会挨拶（愛知大学図書館長）

13：35～13：40 プロジェクト主担当機関挨拶（名古屋大学・端場純子）

13：40～14：20 講演「インドの機関リ

ポジトリ：現状と思想」(宮城教育
大学・吉植庄栄)

14：20-14：50 事例報告(岐阜大学・
石田綾子)

14：50-15：20 実演 JAIRO Cloud (愛
知大学・宮坂昌樹)

15：20-15：30 休憩

15：30-16：10 構築済み機関に聞く著
作権処理(パネルディスカッション)

(コーディネータ：名古屋工業大
学・林和宏, パネリスト：山口大
学・木越みち, 静岡大学・杉山智
章, 岐阜大学・石田綾子, 名古屋大
学・端場純子)

16：10-16：50 なんでも質問大会

16：50-16：55 閉会挨拶(名古屋大学
附属図書館事務部長)

【研修会への意見・感想(抜粋)】

- ・とても参考になりました。職員数も少なく、相談できる人も少ないので、とても助かりました。
- ・このように“軽いノリ”で参加できる場、活動を今後も行ってほしい。
- ・今後も定期的にこのような研修会があるとうれしいです。
- ・初めの一步を踏み出したときの「ど素人質問」をどこにすればいいのかが不安です。メーリングリストがあるといいと希望しています。質問するばかりの人になりそうですが…。

表1 平成24年度連続研修会参加者集計
(機関種別)

	参加者 (総数)	機関種別(アンケートから)			
		私立	公立	国立	その他
第1回	33	18	5	3	0
第2回	35	12	6	13	0
第3回	32	14	7	8	0
合計	100	44	18	24	0

連続研修会の参加者の機関種別及び機関
リポジトリ構築状況は表1及び表2のとおり

であった。

表2 平成24年度連続研修会参加者集計
(機関リポジトリ構築状況)

	構築種別(アンケートから)				
	構築済	構築中	検討中	機運だけ	白紙・その他
第1回	8	8	9	1	0
第2回	16	8	7	0	0
第3回	11	8	8	1	1
合計	35	24	24	2	1

■近隣大学訪問

➤ 名城大学

【日時】平成25年1月23日(水)

13：00-14：00

【訪問内容】

事前に聞いていた質問について、他大学
からの意見や情報を交え回答した。主なや
り取りは次のとおり。

- ・確実なコンテンツ収集のための仕組みとは？
→大学全体の取り組みとして極力義務化の方向で進めること。紀要なら編集委員会の投稿規程に文言を入れてもらう。
- ・実務担当者の著作権許諾対応での悩みは何か。
→とにかく煩雑で手間がかかる。学会や出版社ごとに処理する方法もある。
- ・模範となる許諾フォーマットがあるか。
→求める要件や大学の特性によって異なる。
- ・教材のコンテンツ蓄積・利用に関して、IR関係者の関心は高いのか？
→特に関心が高いようには思わないがコンテンツとしては一定の利用が見込める。

他にも公開時のコンテンツ数や運用体制、
教員の理解を得るための方策など、実際の運
用を想定した質問があり、名古屋大学の事例
を説明するなどした。特に教員コミュニテイ

や部局図書室との間の連絡会など独自の取り組みの紹介が参考になったようだった。

今後もメール等で情報のやり取りをすることになった。

➤ 静岡理科大学

【日時】平成25年2月19日（火）

14:00-16:00

【訪問内容】

・大学の評価に関わることであり、図書館としてはリポジトリは必要だと考えているが、学内の合意形成を始め教員の理解・協力を得るのが大変そうだ。

→学内合意形成は図書館長の力が大きいのでまずは館長への働きかけが大切。ほかにも手始めとして図書館に關係のある先生へ依頼を出すなどの方法が考えられる。名大では各学部を回って説明を行った。

・大学の紀要は一つだけで、すでにホームページで公開している。他のコンテンツをどのように集めるかが問題。人手も必要になる。

→工学系の学会誌はリポジトリへの掲載を認めていることがある。リポジトリ掲載可能な雑誌があればそこから調べて行くと集めやすい。教員に対しては、図書館から働きかけをしないとなかなかコンテンツが集まらない。教員の負担がなるべく少なくなるようにする。ダウンロード数などの統計データを教員へ知らせるとメリットを感じてもらいやすい。

新しく出るものは早目に集めたほうがよい。過去のを調べて登録するのは労力がかかる。

他にも著作権処理やシステムなど、リポジトリ全般に関して先行機関として経験を踏まえたアドバイスをした。情報源としてDRFのWebサイトやメーリングリストを

紹介した。東海地区のコミュニティへの要望としては、気軽に質問できる場がほしいとのことだった。

■先行機関訪問

➤ 北海道大学

【日時】平成25年2月22日（金）

14:00-15:00

【訪問内容】

1. 訪問の目的

NAGOYA Repositoryに搭載するコンテンツの増加を図るため、北海道大学におけるコンテンツの収集体制・方法、利用統計・広報、研究業績データベースとのリンク、また、最近の動向である著者IDや学位規則に改正に伴う博士論文のインターネットによる公表への対応について調査、意見交換を行う。

2. NAGOYA Repositoryの現状と課題

資料に基づき、NAGOYA Repositoryの現状と課題について以下のとおり説明した。

・国立七大学の中でもコンテンツの搭載件数が最も少ないのみならず、国立中規模大学と比べても必ずしも多くない。

・搭載コンテンツのうち、学術雑誌論文及び紀要論文の件数が国立七大学に比べて少ない。

・博士学位論文については、平成22年度の教育研究評議会で平成23年度以降に提出される博士学位論文のリポジトリへの搭載のいわゆる義務化を行った。平成24年度の途中経過について見ると、博士号授与者数211人のうち許諾書提出が131件（62%）でそのうち、リポジトリで公開されているものは48件（23%）であった。

3. 以下の事項について意見交換を行った。

(1) コンテンツの収集体制・方法

①紀要論文

- ・学内刊行部署と連絡調整を行い、できるだけ多くの紀要論文を収集するようにしている。収録するタイトル(87誌)を確定し、担当者任せではなく、必要があれば管理職が学科長等と直接連絡している。(北大)
- ・リポジトリ発足当初に学内刊行部署と連絡調整を行い、許諾の得られた紀要論文を掲載している。(名大)

②学会誌等論文

- ・Web of Science (WoS) を検索し、著作権ポリシーを確認した上で教員に学会誌等論文の掲載を依頼している。WoSの検索で250件/月の論文がヒットするが、実際に掲載している論文は160件/月程度である。(北大)
- ・教員等からの学会誌論文の掲載依頼によっている。(名大)

③博士論文

- ・国立国会図書館との共通許諾に参加したが、新規博士論文のリポジトリ掲載の義務化は行っていない。年間の博士号の授与数は600名程度である。(北大)
- ・国立国会図書館との共通許諾に参加した。過去分について積極的な収集は行っていない。平成23年度以降の博士論文については義務化を行った(実績については2.を参照)。年間の博士号の授与数は500名程度である。(名大)

④収集体制

- ・CSI 委託事業の領域1が平成21年度に終了したので、平成22年度から平成24年度の3カ年については、学内経費600万円を要求し、リポジトリのコンテンツ作成、人件費、旅費に充てている。平成25年度以降は、増員1名が見込めるのでリポジトリについては正規職員

の作業とする予定である。(北大)

- ・受入・整理業務の本館への集中化、また、部局図書室の図書系職員の本館組織の集約化ができたので事務分掌規程を見直し、平成23年度から部局図書室の業務としてリポジトリに関して教員へのアプローチ、コンテンツの搭載を追加した。(北大)
- ・事務補佐員1名を雇用し、リポジトリに係る作業を担当させている。(名大)
- ・研究室訪問を2週間に一度行い、コンテンツの収集に努めている。訪問した教員から知人の教員を紹介していただいている。(北大)
- ・研究室訪問は行っていない。(名大)

(2) 利用統計・広報

- ・コンテンツを提供した教員に毎月利用統計をメールで送付している。江別市の鈴木敬二氏(元NII)が開発した有料のプログラムをインストールし、利用している。(北大)
- ・教員の協力を得るには利用統計の定期的な提供は必須である。(北大)
- ・リポジトリにコンテンツを提供している研究者コミュニティがある。以前にはそのコミュニティの教員へ利用統計を手作業で送付していたが、現在は利用統計サイトの案内をしているのみである。(名大)

(3) 研究業績データベースとのリンク

- ・本部で研究業績データベースの開発を進めてきたが、インターフェース等の点で平成25年度からReaD & Researchmapに移行することが決定している。研究業績データベースからのデータの提供を受けていない。(北大)
- ・CSI 委託事業で開発した研究者リゾルバをリポジトリに実装し、ReaD &

Research Map の当該研究者の情報を検索、表示させるようにしている。研究業績データベースとのデータのやりとりはしていない。(名大)

(4) 著者 ID

- ・著者 ID はリポジトリに持たせていない。CSI 委託事業で金沢大学が開発しているリポジトリへの著者 ID の実装に期待している。(北大)
- ・著者 ID はリポジトリに持たせていない。(名大)

(5) 学位規則の改正に伴う博士論文のインターネットによる公表への対応

- ・学位規則の改正の通知が遅れているが、学務部とは非公式に相談している。(北大)
- ・学位規則の改正のパブコメが行われた平成25年1月に学務部に連絡し、相談を開始した。(名大)
- ・国会図書館による博士論文のメタデータの収集は NII の JAIRO 等からのハーベストによることになると思われる。また、この点からも JuNii2 による博士論文のメタデータの記載を標準化、強化する必要があるのではないか。(北大)
- ・メタデータは JuNii2 準拠となっていない。Citation に引用情報が押し込まれている。(名大)

4. まとめ

NAGOYA Repository へのコンテンツの搭載を増やすためには、以下の方策を実施する必要がある。

- ・コンテンツを提供した教員に毎月利用統計をメールで送付するプログラムの実装と運用
- ・刊行部署との紀要搭載についての管理職レベルでの連絡調整

- ・特に部局図書室によるコンテンツの収集体制の整備
- ・コンテンツ収集に向けた広報・ウェブサイト整備

3. 成果・波及効果

(1) 近畿地区

本プロジェクトを開始する以前の各大学の機関リポジトリ構築担当者は、DRF のワークショップ等で知り合うなどにより個々の関係はあったものの、近畿地区の機関リポジトリ担当者間にコミュニティと呼べるものは存在しなかった。しかし本プロジェクトで実施した研修会等での職員交流により、近畿地区には機関リポジトリや学術情報のオープンアクセス化をテーマとして互いに相談ができるコミュニティが構築された。これは本プロジェクトの大きな成果といえる。

各回の研修会には多数の参加者があった。研修会では、先行機関の成功・失敗事例等の直感的に理解しやすい具体例の紹介などが多く、参加者が接することに抵抗が少ない内容となっていたことが大きな要因であると思われる。また、一度研修会に参加した者が継続して次の研修会に参加しているケースも多く見られた。結果、研修会参加をきっかけに、機関リポジトリ構築の検討を始めた機関や、機関リポジトリを構築した機関があった。既に機関リポジトリを構築していた機関の担当者においても、本プロジェクトに参加することによって見聞を深め、コンテンツ収集に積極的に取り組む等、近畿地区の機関リポジトリ事業進展に大きな役割を果たした。

また、当時 JAIRO Cloud のサービス開始前であった国立情報学研究所と連携して、同サービスへの参加募集活動を本プロジェクトの支援活動の一貫として行った。これによって8つの機関が JAIRO Cloud へ参加し、2つ

の機関が独自に機関リポジトリを構築し、2つの機関が構築に向けて具体的な検討を開始した。特にそれまで機関リポジトリ導入に躊躇していた複数の中小規模大学から JAIRO Cloud への参加申込があり、機関リポジトリの構築増加につながった。これらも本プロジェクト活動の大きな成果の一つとして挙げることができる。

(2) 名古屋・東海地区

①連続研修会

名古屋・東海地区で実施した3回の連続研修会では、平成22・23年度に近畿地区で実施された連続研修会はノウハウを受け継ぎ、また、研修プロジェクトを実施している DRF と連携し、JAIRO Cloud を含む機関リポジトリ実施機関の事例報告のみならず、機関リポジトリの意義、電子ジャーナルとオープンアクセスの関わり、インドの機関リポジトリ事情について講演も行われ、大変内容が充実したものとなった。このため、研修会には講師・スタッフを除いて毎回30名以上の参加があった。名古屋・東海地区では、平成20年度以降、地区内で機関リポジトリをテーマとした研修は行われてこなかったが、研修に対するニーズの高さが確認できた。さらに、参加者からのアンケートの集計結果を見ると研修会については非常に好評であり、今後も何らかの形でコミュニティの継続を望む声が多かった。

研修会会場では参加者同士が活発に交流する様子が見られたほか、研修会が終わってからもメールで質問するなど、これを機にリポジトリ担当者間のつながりができた。また研修会の実施にあたって連携機関の大阪大学以外に名古屋工業大学、愛知教育大学、愛知大学といった地元の機関の協力を得ることができ、運営を通じてコミュニティの基盤が作られたといえる。

②近隣機関訪問

近隣機関訪問では研修会でフォローしきれなかった部分を含め、様々な質問に答えることで訪問期間のリポジトリ構築支援を行うことができた。

③先行機関訪問

北海道大学を訪問し、意見交換を行うことでコンテンツ収集や広報の具体的な改善に役立つ情報を収集することができた。

④波及効果

名古屋・東海地区では平成24年7月時点で機関リポジトリ設置機関が11機関（国立7、私立4）と少なかったが、機関リポジトリを準備・検討している大学にとって今回の研修会は大いに役立ったようである。平成25年3月時点で名古屋・東海地区の機関リポジトリ設置機関は16機関（国立8、公立1、私立7）となり、1年を経ずして5機関の増加を見ている。研修会参加機関のうち、名古屋市立大学が機関リポジトリを2013年2月に公開している。

本プロジェクトは、「具体的な課題も含め、今後も引き続き必要であるのは、実務および様々な問題を共有・検討するための担当者コミュニティと考えられる」³⁾という CSI 第2期終了時に指摘された機関リポジトリの課題に対する取り組みといえよう。

4. 課題及び課題解決へ向けての展望

本事業を機に形成されたコミュニティを今後どのように継続させていくかが課題である。

担当者の交代や新規の参加希望にも対応していかなければならない。また費用や人的負担も考慮する必要がある。

メーリングリストによる情報交換は費用がかからず日常的に交流が持てるので有効である。またフリーの外部システムを使えば管理者権限をいつでも移譲できるので、特定の機

関がサーバを維持せずとも運用可能である。

また、交流が途絶えないようにするには直接話のできる場を設けることも重要である。地区のコミュニティの利点は、日頃から様々な研修会や講習会で顔を合わせる機会が多いことである。そのような機会を生かしてつながりを保つことができると考える。

5. 今後の計画

近畿地区では、平成24年度以降は形成された機関リポジトリコミュニティの活動を自立して行うことができるようになった。今後も、機関リポジトリや学術情報のオープンアクセスに関して直接の担当者間のコミュニティは継続し、相互に情報交換、情報提供していきたい。

名古屋・東海地区では、研修会参加者にアンケートで今後の名古屋・東海地区における機関リポジトリのコミュニティ活動について意見を聞いたところ、研修会の開催やメーリングリストでの情報交換を希望する声が多かった。

しかしながら、長期的に機関リポジトリのコミュニティ活動を継続していくためには、特別な費用を必要とせず、また特定の大学に負担がかからない方法で実施するのが望ましいと考える。

名古屋大学は東海地区の88の大学、短期大学、高等専門学校が加盟する東海地区大学図書館協議会の会長館及び事務局であり、協会事業としての機関リポジトリの位置づけを協議し、例えば定期的で開催されている研修会のテーマに機関リポジトリを取り入れることが考えられる。また、東海地区大学図書館協議会の総会は例年8月なので、それまでの期間手をこまねいているのではなく、今回形成された名古屋・東海地区の機関リポジトリのコミュニティの活動を継続するためにGoogle等フリーのシステムを使ってメーリングリストを運用することを検討している。

さらに、国立情報学研究所の「連携・協力推進会議」の下に平成25年度に設置予定の今後の機関リポジトリの推進を統括する委員会の活動に協力するとともにDRF (Digital Repository Federation) と連携し、地区における機関リポジトリコミュニティ形成支援を支援したいと考えている。

6. 引用文献等

- 1) 大阪大学附属図書館, 奈良女子大学附属図書館, 龍谷大学図書館, 神戸市外国語大学学術情報センター (図書館), 大阪府立大学学術情報総合センター。近畿における機関リポジトリコミュニティ形成の支援 (近畿領域3プロジェクト)。平成22年度 CSI 委託事業報告交流会発表資料 2011. 6. 13.
<http://hdl.handle.net/11094/14142>
- 2) 大阪大学附属図書館, 奈良女子大学附属図書館, 龍谷大学図書館, 神戸市外国語大学学術情報センター (図書館), 大阪府立大学学術情報総合センター。近畿における機関リポジトリコミュニティ形成の支援 (近畿領域3プロジェクト)。国立情報学研究所 平成23年度 CSI 委託事業報告交流会発表資料 2012. 6. 12.
<http://hdl.handle.net/11094/14136>
- 3) 土出郁子, 呑海沙織. 日本における学術機関リポジトリの発展過程と現状 図書館界 Vol. 62, No. 2, 2010, p. 158-168.

7. その他

事業の展開のために、近畿地区、名古屋・東海地区それぞれでプロジェクトのホームページを構築した。

- ・近畿地区における機関リポジトリコミュニティ形成の支援 ホームページ
<http://cont.library.osaka-u.ac.jp/kinki3/>



- ・名古屋東海地区における機関リポジトリコミュニティ形成の支援 ホームページ
<http://truth.nul.nagoya-u.ac.jp/tokair/index.php>

